

～43号～2016年8月1日発行～

\*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考える団体です。

# ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

NPO法人不登校情報センター

訪問サポート部門トカネット・代表藤原宏美

下記の予約先

E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp (藤原) / 090-4953-6033(藤原)

## 不登校・ひきこもりの個別相談 行なっております

(予約制・ご相談料金3000円です。)

皆さま、こんにちは。

8月になりましたね、夏バテしていませんか。

私の主催している団体にも、不登校で、ひきこもっていて、ポケモンゲームが大好きな子供たちが何人もいます。

その子供たちが、外に出たいと思うようになったり…、外に出ようと頑張ってみたり…、夜、暗くなってから少し出してみたり…。

あれだけ怖かった外の世界に、行ってみたいと思う気持ちが生れてきています。

『ポケモン GO』には、確かにすごい力がありますね…。

ポラリス通信で紹介しましたが、「産業廃棄物の現場で働く、6年間のひきこもり経験者エンジさんの話を聞く会」をしました。

10年以上仕事をしていない人や、ぎりぎりの精神状態でバイトをしている人、バイトをしていたけど限界を感じて辞めた人、などなど。

30代、40代の社会的ひきこもり状態の人たちが5人集まって、エンジさんの話を聞きながら働くということについて思いのたけを話し合いました。

職場で言われてキツかった言葉は、「そんなことも知らないの?」、「さっき教えてましたよね…。」。最も不安なのは、「自分で判断しなくてはいけない状況」だとか…。

とにかく優しくしてほしい～、と働くことの怖さ、不安を口をそろえて語っていました。

◆エンジさんのお話し会は8月9日(火)13時から、今月も行います。今度は、親御様もぜひご参加くださいませ。

# “支援に見えない支援”の方が効果的では

松田武己

先日のブログ「救急車のイキな引きこもり対応策」に書きました。  
く引きこもり生活のなかで、苦しくなると救急車に連絡をしているAくんがいます。何度も繰り返して救急隊員とは顔見知りになっています。

Aくんから予想外のことを聞きました。救急隊の本来の仕事は、病気の人を医療機関に送る役割だと思います。引きこもり対応をしているわけではありません。

Aくんのところに来る救急隊は、医療機関に行くのではなく、様子を見て、話しかけ、落ち着いたら引き上げるようになりました。しかし、このやり方を繰り返すのも策がないと感じたのでしょうか。隊長という人が「他にできることはないかな」的なことをつぶやいていたといいます。

あるときAくんの様子を見て今日は外出できると見えたらしく、Aくんに確かめたうえで外に出て、救急車に乗せて周辺の“ドライブ”になりました。救急隊が訓練する運動場のあつ訓練施設に連れて行ってもらったこともあります。「人目がないところなら動けるかもしれない」と考えたようです。そのときAくんはその訓練場でからだを動かすことができました。救急隊の“この策”は、「他にできることはないかな」と考えた結果だと思います。>

救急隊の例は「引きこもり支援ではない機関の支援」ですが、不登校情報センターでは逆のことを追求しています。これまで引きこもりや不登校に関して教育心理相談、フリースクールやサポート校の学校情報を集めてきました。親の会情報や訪問活動の情報を集めてきました。公共機関を含めると4000か所の情報になります。それは20年以上かけた作業ですから不思議ではありません。

しかし、引きこもりや不登校の支援というのは、該当する本人と会える・会えないという特別の大問題があります。いくら引きこもり専門とはいえ「引きこもりの本人に来てください」と待っていても事態は始まらないのです。どういうことなら「会える」のか。

そこを考えたのです。これが“支援”でなければ、引きこもり本人も「会う」のに少しは負担が軽くなるかもしれません。どういう場合があるのかを説明しましょう。

出張理容師・美容師、出張歯科医、出張メガネ店…はどうでしょうか。これらのサービス職の人は引きこもり支援をするつもりはありません。負担が軽いとはその点です。

だからといって引きこもりの人全部に会えるとは思いません。

そのあたりの出張型・訪問型のサービスを実施している事業者や個人の情報を集め始めました。事務作業でこの訪問型の事業者を調べています。いちばん集まったのは訪問型パソコン指導員です。家事サービス（食事指導、室内整理など）もあります。出張理容師・美容師、出張歯科医、出張メガネ店も見つかりましたが正直なところ少ないです。そういう部分はありません。表には出していないようです。

例えば折り紙や編み物やゲームや将棋はどうでしょう。書道や絵画や楽器演奏はどうでしょう。…こんなことを出張や出前でしている人がいるのではと、次つぎと浮かんできますが、探すのはたいへんで、見つけれません。

発想を変えましょう。人は誰にも出来ること・好きなこと、ときには得意のことがあります。親世代の人には仕事や生活の経験があります。「1人1得意」を集めようと発想の転換です。趣味を生かす、仕事の経験を生かすという方向です。ただ自分の子どもに対しては上手いかないものです。親子の関係ではそうはなりにくいからです。

そこで考えました。親にはいろんな会合や勉強会に参加してもらう形から始めます。

◎別項に少し紹介します。

当事者には居場所ですしていることに参加を呼びかけます（別項の「引きこもり経験者がサイトを収入源にする形」）。しかし、これとは別に自分で何かを始めている人もいます。手作りアクセサリーの制作販売（創作活動）、ヘルプデスク（パソコンの知識を生かす）、手紙カウンセラー（引きこもり体験を生かす）、趣味を生かす形もあるようです。

これらの全部はそのうち「訪問・出張型サービス業界の紹介」というサイト制作に向かいます。

救急隊の例は「引きこもり支援ではない機関の支援」ですが、「引きこもりの支援機関」からは、“引きこもりの支援に見えない支援”を探します。反対方向を向いているようすが集まる場所は近いみたいです。右端から左に向かうのと、左端から右に向かうのは、中央で並んでしまうものです。

不登校情報センターの居場所は、もともとそういう色合いのところですよ。その居場所ワークと呼ぶものには事務作業とHP制作があります。

引きこもっていた人がそんな不登校情報センターに来るようになったからといって、これという“支援”を感じられないかもしれません。居るだけOKといっても、どのように居るのは自分で決めなくてはなりません（本をもってきて読む、TVを見る、スマホでゲーム…とか）。周囲の人を妨害しなければ規制はありません。誰かと話すだけOKですが、自分で相手を探さなくてはなりません。この居場所はメンドー見が悪く、ほったらかしであることは確かです。

私はこれでいいと思っています。居場所に来つづけると自然に話し相手はできません（時間はかかりますが）。引きこもりを経験した人は“わざとらしさ”が苦手でしょう。特に自分に向いてくる意図的なものは避けたい気持ちが働きます。自然な時間経過に任せるのです。自宅で神経をつかいないが静かに抑えている感じを味わっていると、気分転換ぐらいにはなるのでしょ。

私がこの居場所で“支援”を考えているとすれば、その日の作業内容に何をするかということです。HP制作については、来ている人の方が私よりも技術的に詳しいのです。「何をどうする」という方向性がわかれば、後はお任せになります。

事務作業は、その日に何をするか具体的に示さなくてはなりません。請求書を書く、入金確認をする、台帳をつくる、台帳を整理する、郵便物を送る、FAXを送信する、ネット上を検索し調べる（例えば心理相談室を探す）などです。

事務作業はサイト制作のための情報集めが中心になりますが、この方法は伝えるにしてもなかなか大変です。見よう見まねですが、根気とセンスが求められます。企画会議という意見交換の積み重ねがその役割をしています。

このような事務作業の指示は（今のところ）その日に指示をすることになります。

これらが居場所における私の“支援内容”です。ちっとも支援者らしくはないでしょう。それでいいと思っているのです。いかにも「支援しています」というのは私の柄ではありません。

## ひきこもり経験者がサイトを収入源にする形

HPを使い収入源にする方法はいろいろ語られますが、実際に実現できているのはごく一部です。多くを求めずできる方法を探してきました。10年余りの不登校情報センターのサイト運営のなかで、かなり大きなサイトができ、毎日多数の人がアクセスする状態になりました。ここを使い工夫しようという提案です。

いま収入源になっているのは「Googleのアドセンス」ですが、少しずつ減少傾向にあります。次の取り組むのが「紹介団体のリンク（バナー作成）」です。他の方法を含めてまずは紹介します。

**説明会や企画会議も開きます。**サイト制作に関わる人と家族、関心を持つ人が対象です。1人でも希望者がいれば実施します。8月15日（月）13時と27日（土）13時から2時間程度を予定（8月は2回、以降も予定します）。当事者と家族に参加をお願いします。

\*大人の引きこもりを考える教室や事務作業の場でも話すことがあります。

### (1)Google のアドセンス

基本的には5000ページ以上あるページに「Ads by Google」のスペースがあります。初期の不登校・ひきこもりに関係する商品広告でしたが、3年前からは不動産、金融、通信機器、パソコン材料などいろいろな商品・サービスが掲載されてきました。この選択はGoogle側がしていることで、Google側にそのように認められているのです。

詳しくは説明を書きませんが、この運用に気づいたことがあれば提案してください。

### (2)紹介団体のHPへのリンク(バナー作成)

#### (A) バナーの作成

①紹介する学校・相談室のHPと有料のリンクをするときは、バナーを作成します。

②バナーは200px×60pxの横長の大きさを基準とし、その学校・相談室からの提供がある場合を除いて、こちらで作成します。

(B) バナーの置き場:複数のページ個所から相手先HPにリンクできます。

(C) バナーの推進（リンク設定の営業案内）

バナー作成とリンク設定の対応策をアピールし、紹介する学校・相談室のHPにリンク設定を依頼できます。営業活動になりますが、依頼はFAX送信による案内です。

依頼対象は学校などの教育団体（公立学校は除く）、心理相談室などの相談室（公立の教育相談室を除く）、およびNPOを含む民間の自立支援団体です。民間の自立支援団体の現状は、独立採算の運営できるレベルではないので無料にする場合があります。

公立の学校・相談室・自立支援団体および親の会・当事者の会は、可能な範囲でリンクをしますが、バナーはつくりません。

### (3)アマゾンの個別商品紹介リンク(本):ページ名と掲載本の一致

2015年の秋以降アマゾンの個別商品紹介リンク（本）を多数（700冊程度？）張り

付けました。内容の関連本、贈呈されてきた本、参考にした本などいろいろです。

それを①種類別のまとめページ、②著者別のまとめページの2か所を集中所蔵します。そのうえで③サイト内の数ページに張り付けています。このうち③を「ページ名と紹介本が一致する」ように改善します。

(A) 「ページ名と紹介本が一致する・一致しない」とはどういうことか。

①サイト内で個別に紹介する学校・支援団体とその関係者がその著作本に関係する場合：紹介する学校・支援団体の詳細情報に含めます（紹介ページ内に張り付ける）。

②「支援者・講師等プロフィール」ページでは、可能な出版物をすべて詳細情報の内容として掲載します（紹介ページ内に張り付ける）。

③紹介本の内容等が地名（都道府県・市区町村名）に関係する場合：各ページに張り付けます。

④紹介する学校・支援団体とその関係者が推薦・推奨する本：各ページ原則として2冊までとします。

⑤ページ名と著作本の内容が一致していない場合：各ページ原則として2冊までとします。現状は3冊以上が多いのでこれを改善します。

(B) この作業の中心

作業の中心は、いちばん多い「⑤ページ名と著作本の内容が一致していない場合」です。すでに貼られている商品紹介リンクを消去ではなく、他のページに張り替える形です。消去すると、その本の紹介が「①種類別のまとめページ、②著者別のまとめページ」以外にはなくなる可能性があります。

「ページ名と紹介本が一致しない場合」は、貼り付けの位置をページの最下段にします（原則として2冊まで）。

現状は、このような「ページ名と紹介本が一致しない場合」が多いので、逆宣伝効果になっているかもしれません。

#### (4)アマゾンの個別商品紹介リンク(一般商品)

出版物以外のアマゾンの商品・サービスの個別商品紹介リンクの利用です。

①引きこもり生活を充実する視点からいくつかのカテゴリをつくり、それに見合う商品・サービスを紹介しています。「ヒッキー生活充実展示場」ページといます。

②「ヒッキー生活充実展示場」ページに並ぶ商品サービスを Wiki 内の多くのページに張り付けます。ページ名と紹介する商品・サービスに相互関係があることが望ましいのですが、あまり気にすると掲載ページがなくなります。「(1)の Google アドセンス」にみられるように、この相互関係はあまり気にしなくてもいいのでしょうか。

③「ヒッキー生活充実展示場」ページは未完成です。サービスの紹介（企画）と女性の需要品の把握が不十分だからです。

④この「商品・サービス紹介」をアマゾン以外の個別会社と契約して進める方法を考えています。担当者を募集します。担当者は FAX 送信の依頼文書づくりが中心です。

#### (5)訪問・出張型サービス業種の紹介

①出張・訪問型の各種のサービス業を紹介します。理容師、美容師、歯科医、眼鏡店、鍼灸整体師、家事サービス（食事・室内整理など）、パソコン指導員・ヘルプデスクなどです。これまであった家庭教師・メンタルフレンド、訪問カウンセラーのページとも合体させ、「家

庭教師・訪問活動」ページとします。職種はアート系、楽器演奏などに広がるかもしれません。

②将来は独自の準ポータルサイトをめざします。その時点ではページ名もそれにふさわしいページ名に変えるのがいいでしょう。当面は有料リンクにはできませんが、サイトとして確立すれば有料化も考えられます。

## (6)周辺ニュース

メーリングリスト「子どもの貧困ネット」から送られてくる情報を選別し、教育関係のニュースを追加し、独自の「周辺ニュース」(不完全な地域別と項目別)をつくりかけています。「周辺ニュース」サイトをブログにより立ち上げる考えがあります。かなり重要で注目されるサイトに成長すると見込んでいます。

### ① 1件の記事の扱い

記事内容から種類別と地域の2つにカテゴリズできます。そうすると記事群の構造ができます。記事は1つですが種類も地域も2つ以上になることがあります。この構造づくりが課題になります。

### ② 記事の採用

「子どもの貧困ネット」の情報は福祉関係と法令が多いようです。教育関係は他の新聞からアットランダムに見つけます。完全は望めませんが、相当なレベルのデータベースになります。

### ③ ブログの名称など

記事採用の目標と構成は、教育・福祉・生活・制度にかかわる新聞等の記事を継続的に集約するブログです。私案は「子ども若者周辺ニュース」を提案します。

## (7)市区町村別ページと都道府県別ページ

学校、相談室、支援団体、公共機関の所在地を市区町村、都道府県でまとめるページです。紹介団体のページ作成の副産物として始まりました。独立ページ群として有効活用できます。

(A) どんな情報が入っているのか。

①現在はその市区町村に所在する、学校、相談室、自立支援団体、親の会、公共機関などのうち詳細情報の提供を受けたところが下段の「下位カテゴリ」に並びます

②画像を入れようとして、使用済み記念切手(150枚?)、市区役所・町村役場の所在地のGoogleマップ(作業途中)、およびAmazon本と一般商品が選別されないまま入っています。

③「周辺ニュース」の関係情報を転載し始めました。これは①の所在する詳細情報に並ぶ貴重なものですが、やり方はまだ確立していません。

(B) 都道府県と市区町村ページの扱いの違いが不明確です。これは研究課題です。

(8)他にもいくつかありますが省略します。

## ◆今後のお知らせ

★大学生や社会人による、不登校やひきこもりの人への訪問サポート(メンタルフレンド・同行援助)を1998年から行っています。

サポーターとか関わる事で、どのように学校や就労を含めた社会参加に繋がっていくのかを中心に、説明日及び親の会では具体的に話します。

### (1) 訪問サポート(メンタルフレンド・同行援助) 説明日

\*日時: 8月 21日(日)、13時~。

(2) とかねっと親の会(8月はお休みさせていただきます。)

\*日時: 月 日(日)、13時~。(参加費: 500円)

\*対象: 親ご様(お子様年齢10~30代) ★お一人でも行います。

### (3) 不登校・ひきこもりの親の会

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと...など複数の専門家と一緒に考えていきます。

\*日時: 8月 28日(土)、13時~。

\*参加費: お一人500円。

\*対象: 10代および20代の子供の親・体験者・学びたい人

### (4) 「大人のひきこもりを考える教室」

\*日時: 8月 14日(日)、13時~15時。

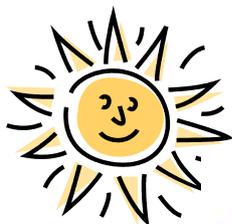
\*参加費: お一人500円。

\*対象: 30代以上のひきこもりのご家族・経験者・学びたい人。

◎上記は、全て予約制です(連絡先は下記まで)。

◎場所: 不登校情報センター(◆交通機関: JR総武線「平井」駅南口・徒歩5分)

◎地図は、下記のホームページ(URL)をご参照ください。



●不登校情報センター

●訪問サポート・トカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先・予約先

TEL / 03-5875-3730 / 090-4953-6033 (藤原)

E-mail / tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL / <http://www.futoko.info/tokanet/>